



最終号

環境情報活動センターの17年を振り返って

環境情報活動センターは、人々が環境情報を共有でき、環境学習や環境活動ができる場を提供することで、区民の自律的活動の創生・活性化を図ることを目的に、2005年8月に開所しました。その後16年8か月の活動を経て、本年3月末をもって活動に幕を閉じることになりました。この間、区民の皆様には当センターの活動にご理解ご協力をいただくとともに、多くの方々のご参加を賜りましたことに心より厚く御礼を申し上げます。

当センターの活動は、本年5月に開設される“エコルとごし”に引き継いでいただくことになっており、皆様方には更なるご支援を賜りますようお願い申し上げます。



エコルとごし

…環境情報活動センター 16年8か月の活動報告…

環境学習講座

環境情報活動センターでは年間を通じて環境に関する様々な講座を開催してきました。地球温暖化、リサイクル、自然観察など、様々な学習や体験を通して新たな発見もありました。開催した講座については講座レポートをホームページに掲載し、参加者のみなさんにだけでなく、多くの方々に講座の様子をご紹介します。

<開催総数>

小学生対象講座: 320コマ、参加人数: 11,000人

大人対象講座: 200コマ、参加人数: 4,000人

(講座の一部)



ペットボトルで雲作り実験
(気象予報士と学ぶ気象と環境)



しながわの水辺の
生きものたち



しながわ区民公園で
自然観察



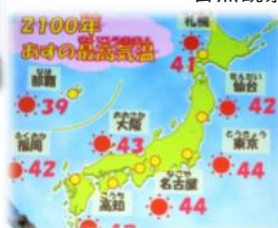
海洋プラスチックの現状



園芸講座



庭師と作る和風リース



地球温暖化
(2100年の天気予報)

環境記者

区民環境記者(登録制)の皆さんに花の開花情報、記者ご自身の環境活動など、身近な環境情報をお寄せいただき、当センターのホームページでご紹介してきました。

(記事例)・私の散歩道(シリーズ)

・「花交差点の仲間たち」歩道花壇の植替え(上写真)

・聖蹟公園清掃美化活動報告

<記事総数> 830記事

<情報交換会> 41回



ECOトピックス しながわecoだより

●環境関連情報を当センターのホームページでご紹介しました。

最近では地球温暖化やSDGs、季節の変化と自然のかかわりなど、環境について広い範囲での情報を提供してきました。

(情報例)

・「SDGs」目標達成のために子どもができること(シリーズ)

・IPCC(気候変動に関する政府間パネル)報告<ミニ報告>

<情報総数> 390報

●当センター季刊紙“しながわecoだより”(本紙)では、開催予定の環境学習講座のご案内を行い、より多くの方にご応募、ご参加いただきました。

<発行回数> 60回



今日の朝ごはん、何を食べましたか？ ご飯でしたか？ パンでしたか？ みなさんの食べたお米やパンの材料がどこで作られ、どうやってお家のテーブルまでやってきたのか考えたことはありますか？ スーパーで買った日本のお米を食べているお家が多いでしょうか？ もしかすると田舎のおじいちゃん、おばあちゃんが作ったお米を食べている人もいるかな？ パン屋さんかスーパーで買ったパンを食べているかな？ パンの材料はどこからきているかな？

わたしが住んでいる石川県能登半島にはたくさん田んぼがあり、お米がいっぱい作られています。みなさんは田んぼを見たことはありますか？ 田んぼの中にはどんな生き物が住んでいるか知っていますか？ 今日は田んぼにいる生き物について少ししょうかいしたいと思います。

ゲンゴロウやホタルやトンボなどのこん虫、カエルやイモリ、サンショウウオなどの両生類、ドジョウやメダカなどの魚、そしてこれらの生き物を食べるサギなどの鳥をはじめとするたくさんの生き物が、田んぼや田んぼの周りの水路、田んぼに必要な水をためるため池などを使ってくらしています。みんなの知っている歌に出てくる生き物もいるのではないのでしょうか？ 田んぼにはたくさんの生き物がくらして、日本の生き物の豊かさを守っていく上でとても大切な場所だと言われています。



田んぼの風景

でも実は、これまでの50年間で、一人の日本人が食べているお米の量は半分ほどに減っていて(※)、「米ばなれ」という言葉も使われるようになってきました。みんながこのままどんどんお米を食べなくなってしまったらどうなるのでしょうか？ お米を買う人がいなくなったら、農家さんはお米作りを続けていけなくなります。田んぼが減り、そこでくらしてきた生き物も生きていけ



田んぼにいたニホンアカガエル

なくなってしまうでしょう。では、どうしたらよいのでしょうか？ そうです、わたし達は、田んぼで作られたお米を食べるということで、そこでくらしている生き物たちを応援することができるのです。そして、食べ物について考えるときに、その食べ物がどのくらいのきよりを移動してみんなのお家までたどり着いたのか、ということを考えることも大切です。なぜでしょうか？ 食べ物を遠くから運んでくるためにはたくさんの燃料を使います。たくさんの燃料を使うと二酸化炭素がはい出されて、地球温暖化を進めてしまうことにつながるのです。

わたし達が毎日何気なく食べている物と地球上の生き物やかんきょうがつながっているということを少し分かってもらえたいでしょうか？ ぜひ自分が食べている物がどんなかんきょうで育ったのか、どのくらいのきよりを移動してきたのか、お家の人といっしょに考えてみてくださいね！

※ 農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室
「食料需給表 令和2年度」（令和3年8月）

文責：能登SDGsラボ 連携研究員 小山 明子

しながわecoだより 2021年度 第4号

発行：品川区都市環境部環境課

編集：特定非営利活動法人
エコタウンしながわ

発行日：令和4年3月11日

住所：〒140-0003 品川区八潮5-9-11

TEL/FAX：03-5755-2200

E-mail：center@shinagawa-eco.jp

HP：https://shinagawa-eco.jp/

本紙は古紙を配合した用紙で作成しています